HONDA

PCX

ご使用の前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

取扱説明書

目　次 CONTENTS

1 ご使用の前に

2 装備の使いかた

3 乗ってみよう！

4 こんなときは…

5 メンテナンスについて

6 車両情報

7 さくいん

ご使用の前に
装備の使いかた
乗ってみよう！
こんなときは…
メンテナンスについて
車両情報
さくいん

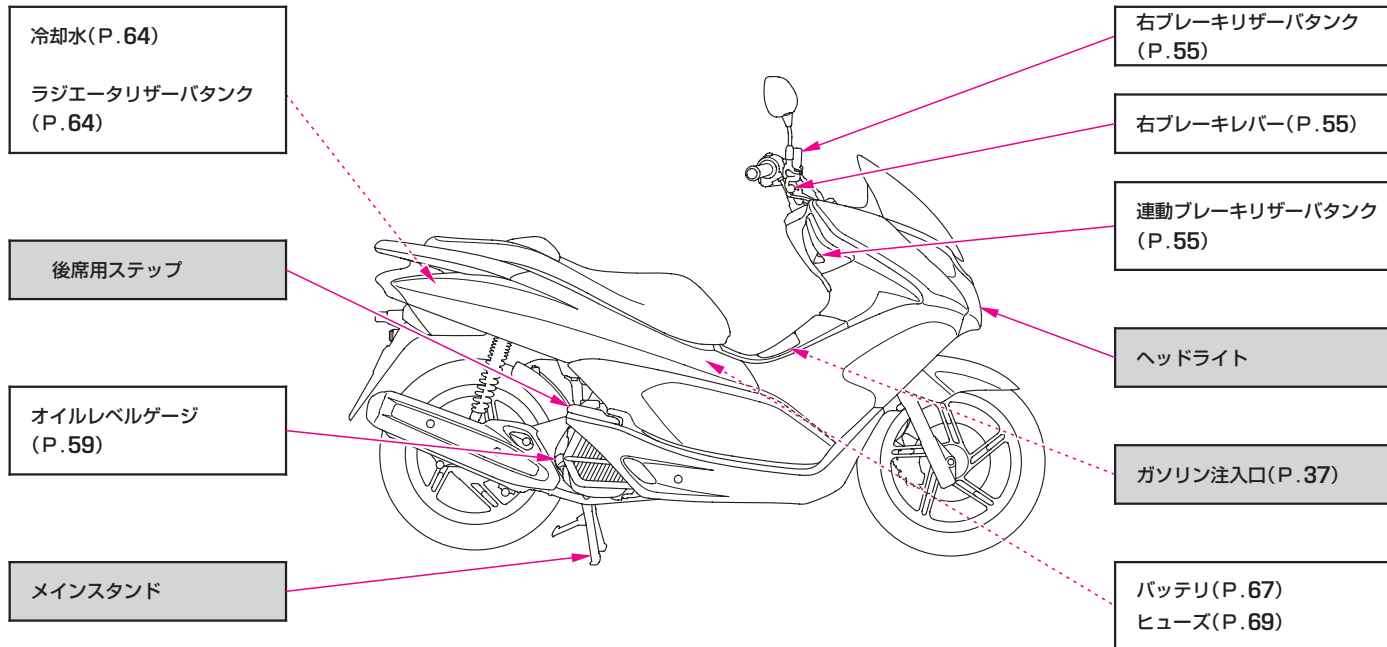
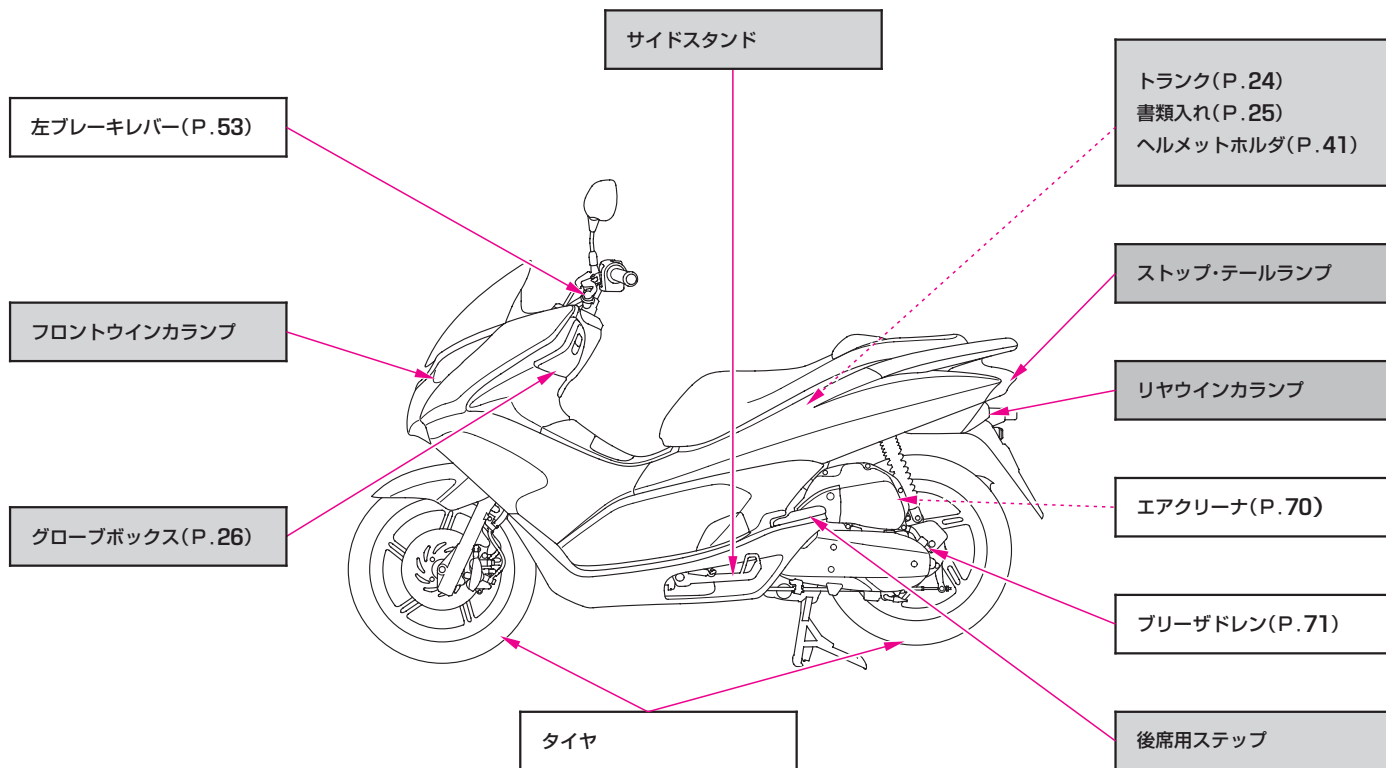
1 ご使用の前に ビジュアル目次

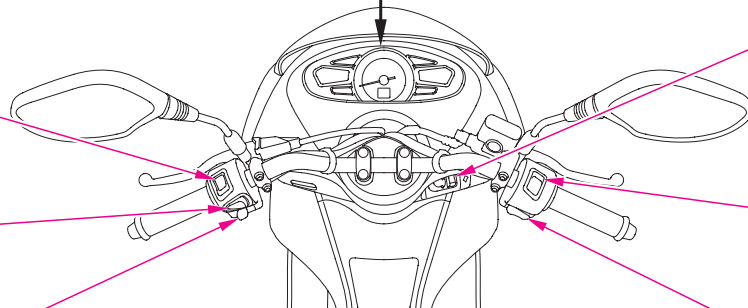
は外観上見えている箇所を示します

は外観上見えていない箇所を示します

はメンテナンス部品項目を表します

は機能・操作項目を表します

ご使用の前に
装備の使いかた
乗ってみよう!
こんなときは…
メンテナンスについて
車両情報
さくいん

ビジュアル目次

方向指示器表示灯（P.22）
スタンバイ表示灯（P.22）
モードスイッチ（P.20）
水温警告灯（P.22）
前照灯上向き表示灯（ハイビームパイロットランプ）（P.22）
速度計（P.20）
はメンテナンス部品項目を表します
は機能・操作項目を表します
方向指示器表示灯（P.22）
ディスプレイ（P.20）
PGM-FI 警告灯（P.22）
前照灯上下切換えスイッチ（P.32）
ホーンスイッチ（P.32）
方向指示器スイッチ（P.32）
メインスイッチ（P.28）
燃料タンクリッド／
シートオープナスイッチ（P.23，37）
シャッター（P.40）
アイドリングストップモード切換えスイッチ（P.30）
スタータスイッチ（P.29）
km/h
STAND BY
TRIP
ODO
km

服　装

**心のゆとりと正しい服装が安全運転のキメ手です。
道路交通法を守り、あせらずにゆとりを持って落ち着いた運転を心がけましょう。**

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

●運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。
ヘルメットは二輪車用でPSC、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっくり合って圧迫感のないものをお選びください。

●保護具や保護性の高い服を着用してください。
・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
・くるぶしまで覆う靴の着用
・摩擦に強い皮製の手袋の着用
・長ズボンと長袖のジャケットの着用
－明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
－すその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキ操作などの運転動作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

⚠警告

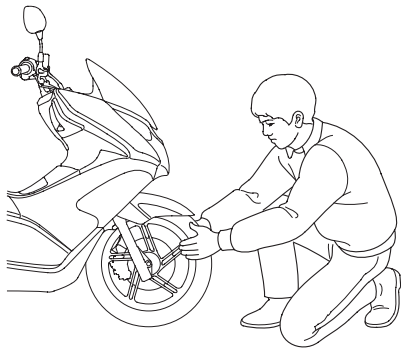
ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

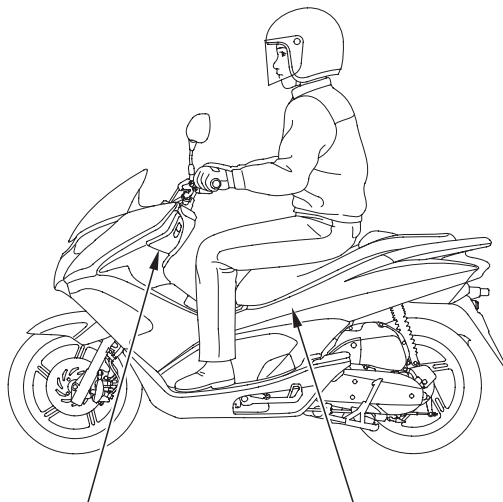
運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

運転する前に

●日常点検を行ってください。
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
日常点検は、51ページ参照。

●定期点検を実施してください。
定期点検は、52ページ参照。

荷　物

荷物を積むと、積まないときにくらべてハンドルの感覚が少し変わりますから注意しましょう。積みすぎると、ハンドルがふられ運転を誤まることがありますので、積みすぎに注意しましょう。

●荷物の積載は下記重量までです。

●グローブボックスから荷物がはみださないようにしましょう。ハンドル操作などに支障をきたすことがあります。

●ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。

●ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。

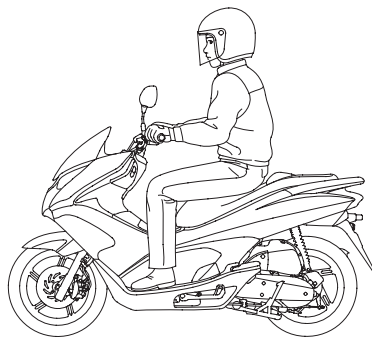
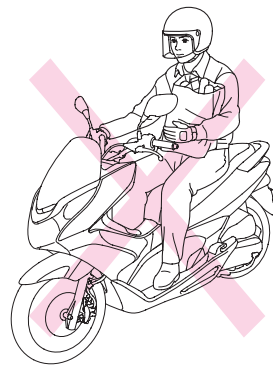
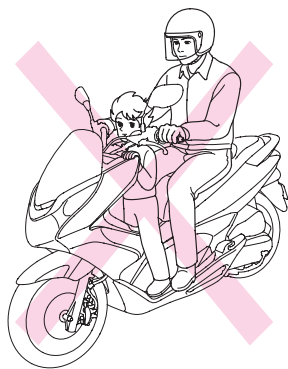
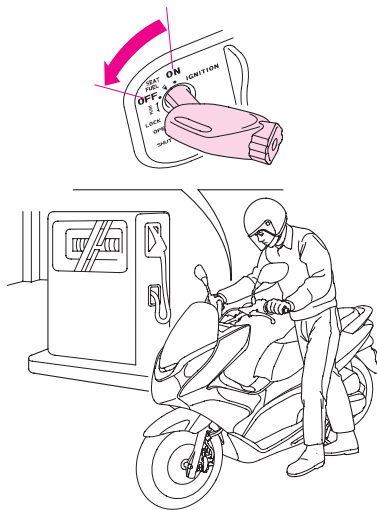
●レンガや鉄片等、固くて重いものをトランクに入れたまま走行しないでください。積載重量以内でもトランク本体が損傷する場合があります。

●荷物は指定の場所以外には積まないでください。カバー等が破損することがあります。

乗りかた

●排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

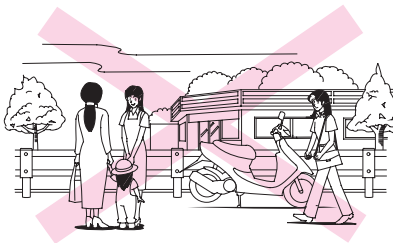
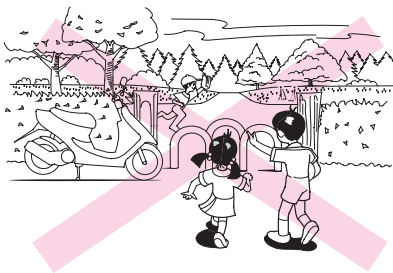
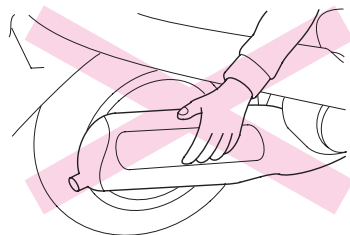
●走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をフロアに置いてください。

●同乗者は、両足を後席用ステップに置き、両手でからだを保持してください。運転者は、同乗者の乗車姿勢を確認してください。

●急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。
これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。

●この車は2人乗りです。同乗者はシート後部にお乗りください。他の場所には乗車できません。
なお、同乗者は両足を後席用ステップに置き、両手でからだを保持してください。

●ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

駐　車

盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜き、シャッターを閉じてください。
メインスイッチのキーはお持ちください。

●水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
●交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
●やむをえず傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟らかい所等に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

サイドスタンドでの駐車について
車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。
ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒する恐れがあります。

●マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。

●エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。

⚠注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

●エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
●他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

改　造

●車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。

●この車は平成19年排出ガス規制適合車です。
排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。
また、マフラには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
他のマフラをこの車に取付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。
マフラを交換する場合は、Honda販売店にご相談ください。

排出ガス規制について

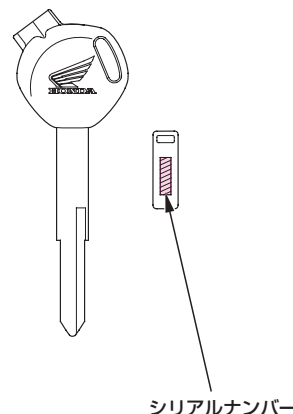
●この車は排出ガス規制適合車です。
PCX (EBJ-JF28型)
平成19年排出ガス規制適合車

マフラの純正マークについて

マフラの後部には、Honda純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。

メインスイッチのキーについて

メインスイッチのキーについているシャッターキーには、シリアルナンバーがあります。
このシリアルナンバーは、メインスイッチのキーを注文するときに必要になります。
メインスイッチのキーを注文する際は、Honda販売店にご相談ください。

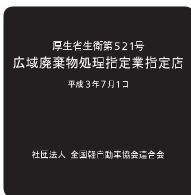
盗難防止のため、シリアルナンバーは他人に知られないように保管してください。

地球環境の保護について

お車および部品等の廃棄をするとき

地球環境を守るため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda販売店にご相談ください。
また、将来お車を廃車する場合も同様です。お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店

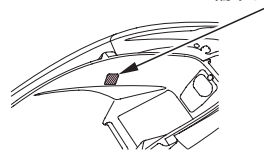
廃棄二輪車取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪車取扱店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。廃棄二輪車取扱店には「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。

廃棄二輪車取扱店の証

二輪車リサイクルマーク／リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。
マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、お車をお客様から廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、トランク内に貼付しています。

二輪車リサイクルマーク

二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。
マークは車体から、剥がさないでください。
マークの紛失、破損による再発行および販売の取扱いはありません。

リサイクルマークの剥がれ等により、リサイクルマーク付対象車かどうか不明の場合は、下記の（財）自動車リサイクル促進センターホームページおよび二輪車リサイクルコールセンターにてご確認ください。

廃棄二輪車のお取扱いに関しては、最寄の廃棄二輪車取扱店または下記二輪車リサイクルコールセンターまでお問い合わせください。

（財）自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号　03-3598-8075
受付時間　9：30〜17：00
（土日祝日、年末年始等を除く）

触媒装置について

触媒装置の働き

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。
触媒装置の働きにより、排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の3つの有害物質の排出量を低減します。

可燃物には注意を

触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

触媒装置を大切に

不適切な取扱いをすると触媒温度が異常に高くなり焼損するおそれがありますので、次のような取扱いはしないでください。

不適切な取扱いの例

●走行中にメインスイッチのキーを操作すること。
●エンジンを止めるとき、空ぶかし直後にメインスイッチのキーを切ること。

触媒装置が損傷したまま使用すると排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、この車本来の性能を発揮できなくなりますので次のことをお守りください。
●燃料は必ず無鉛ガソリンをご使用ください。
●定められた点検整備を実施してください。
●点火系、充電系、燃料系の不調は触媒装置に大きく影響を与えますので、エンジン不調を感じたときはただちにHonda販売店で点検を受けてください。

連動ブレーキシステム

●左ブレーキレバーを操作すると後輪ブレーキが作動するとともに前輪ブレーキが作動します。
●右ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。

ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

アイドリングストップ・システム

アイドリングストップ・システムとは

アイドリングストップ・システムは、信号待ち等の停車時にアイドリングストップ(エンジンを停止)することで燃料消費の低減および騒音の抑制を目的としたものです。

●スロットルグリップを戻し、車が停止するとアイドリングストップします。
　この時ヘッドライトは減光します。
●スタンバイ表示灯の点滅によりアイドリングストップ状態であることを知らせます。
●スロットルグリップを回すことにより、エンジンが再始動します。

アイドリングストップモード切換えスイッチにより、車が停止してもアイドリングストップしない状態にもできます。
(スイッチの操作は、30ページ参照)

アドバイス
アイドリングストップ・システムが作動しエンジンが停止した状態でもヘッドライトは点灯しています。
バッテリが弱っている際にこの状態が続くと、バッテリがあがって再始動できなくなるおそれがあります。バッテリが弱っている時は、アイドリングストップモード切換えスイッチを"IDLING"にし、アイドリングストップしないようにしてください。また、お早めにHonda販売店でバッテリの点検・交換を行ってください。

バッテリの点検は6か月ごとにHonda販売店で行ってください。

アイドリングストップ・システムが作動する条件

アイドリングストップ・システムが作動するためには、いくつかの条件が必要です。次の項目を守り正しくお使いください。

1 走行する前に

●エンジンの暖機を行ってください。
エンジンが冷えた状態ではアイドリングストップ・システムは作動しません。
●アイドリングストップモード切換えスイッチを“IDLING STOP”にしてください。
●正しい姿勢で乗車してください。
シートに荷重がかかっていないと作動しない構造になっています。

上記の状態で走行(車速10km/h以上)するとアイドリングストップ・システムが作動します。

2 停車したとき

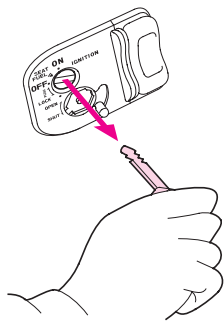
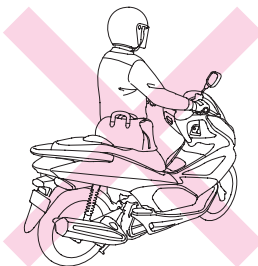
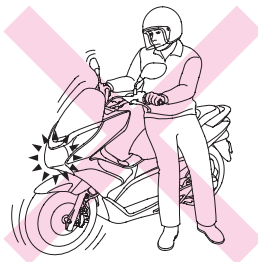
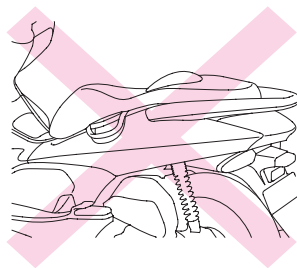
●スロットルグリップを全部、戻してください。
スロットルグリップを回しているとアイドリングストップしません。
●車を完全に停止してください。
速度が 0 km/hにならないとアイドリングストップしません。

3 エンジンを再始動させるとき

●スタンバイ表示灯の点滅を確認してください。
●スタンバイ表示灯が点滅していないとスロットルグリップを回しても、エンジンは再始動しません。
●アイドリングストップ状態で着座していないときはスタンバイ表示灯は消灯し、約 3 分以上着座していないとアイドリングストップ・システムは解除され、ヘッドライトが消灯します。
●アイドリングストップ状態でサイドスタンドを出すとアイドリングストップ・システムが解除されます。
●スタンバイ表示灯が消灯した状態で再始動するときは、ブレーキレバーを握り、スタータスイッチを押してください。
(エンジンの始動は、27ページ参照)

特徴的な装備の使いかた

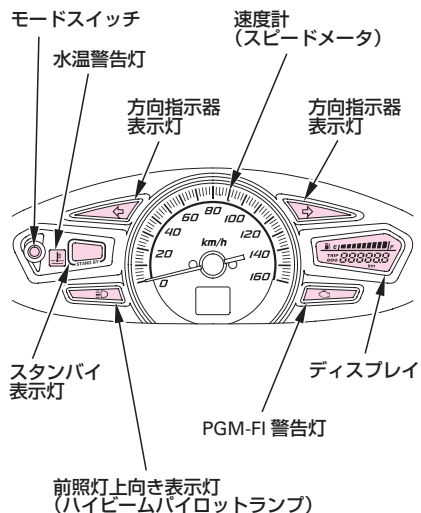
アイドリングストップ･システムを安全に使用するために次の項目をお守りください。

●アイドリングストップ･システムが作動している状態で車から離れないでください。
車から離れるときは必ず、キーを抜いてください。

●アイドリングストップ･システムが作動しているとき、手や体をシートに押し付けたり、シートの上に荷物を載せるなど、乗車以外でシートに荷重をかけないでください。
乗車以外でも、シートに荷重がかかった状態でスロットルグリップが回ると、エンジンが再始動します。

●シートロックができない、またはロックしづらいようなトランクへの荷物等の積載はしないでください。また、シートとトランクの間に荷物等を挟まないでください。

故障と思われる前に

こんなときは、故障ではありません。お買い上げのHonda販売店に持ち込む前に次のことを調べてみましょう。
処置をしても症状が改善されない場合は、お買い上げのHonda販売店へご相談ください。

症　状	確認してください	処　置
アイドリングストップ(エンジンが停止)しない。	アイドリングストップモード切換えスイッチは“IDLING STOP”になっていますか。	アイドリングストップモード切換えスイッチを“IDLING STOP”にしてください。
	エンジンは冷えていませんか。	エンジンが冷えている状態ではアイドリングストップ·システムは作動しません。エンジンの暖機を行ってください。
	車は停止していますか。	速度が0 km/hにならないとアイドリングストップ·システムは作動しません。完全に停止してください。
	スロットルグリップを回してはいませんか。	スロットルグリップを回しているとアイドリングストップ·システムは作動しません。スロットルグリップを全部戻してください。
	一度、走行しましたか。	エンジンを始動したあと、走行(車速10km/h以上)しないとアイドリングストップ·システムは作動しません。一度、走行してください。
	シートに正しい姿勢で座っていますか。	シートに荷重がかかっていないとアイドリングストップ·システムが作動しない構造になっています。正しい姿勢で座ってください。
	トランク内に荷物等を入れ過ぎてはいませんか。	トランク内に荷物等を入れ過ぎるとシートが押し上げられ、アイドリングストップ·システムが作動しない場合があります。このようなときは荷物等を取り出してください。
	PGM-FI警告灯が点灯していませんか。	PGM-FI警告灯が点灯している状態では、エンジン保護のためアイドリングストップ(エンジンが停止)しません。

症　状	確認してください	処　置
スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない。	スタンバイ表示灯は点滅していますか。点滅していないときは下記の項目を確認してください。	スタンバイ表示灯が点滅していないときは下記の処置を行ってください。
	シートに正しい姿勢で座っていますか。	シートに荷重がかかっていないとアイドリングストップ･システムが作動しない構造になっています。また、約3分以上シートに荷重がかかっていないとシステムは解除します。 正しい姿勢で座ってください。
	トランク内に荷物等を入れ過ぎてはいませんか。	トランク内に荷物等を入れ過ぎるとシートが押し上げられ、アイドリングストップ･システムが作動しない場合があります。このようなときは荷物等を取り出してください。
	サイドスタンドは格納されていますか。	アイドリングストップ中にサイドスタンドを出すと、アイドリングストップ･システムは解除されます。
	アイドリングストップモード切換えスイッチは“IDLING”になっていませんか。	アイドリングストップ中に“IDLING”にすると、アイドリングストップ･システムは解除されます。

症　状	確認してください	処　置
スタンバイ表示灯は点滅しているがスロットルグリップを回してもエンジンが始動しない。	――	スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない場合はバッテリコード端子の緩み、バッテリあがりが考えられます。このようなときは、バッテリコード端子に緩みがないか点検してください。バッテリがあがっていたら充電または、交換をしてください。（バッテリの取付け、取外しは68ページ参照）

計器類

速度計(スピードメータ)
走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

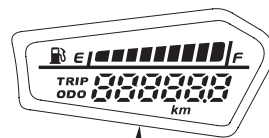
メインスイッチのキーを“ON”の位置にすると、速度計(スピードメータ)の指針は、一度最高目盛に振れた後、“0”に戻ります。

モードスイッチ
積算距離計(オドメータ)、区間距離計(トリップメータ)の表示切換え(21ページ)、区間距離計(トリップメータ)のリセット(21ページ)に使用します。

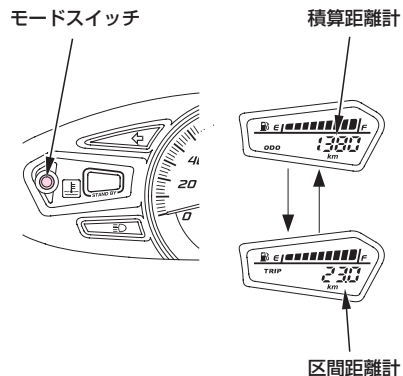
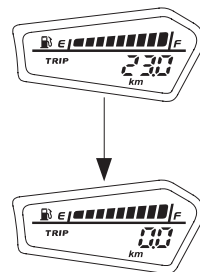
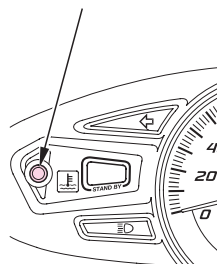
安全運転に支障をきたすおそれがありますので走行中はモードスイッチの操作は行わないでください。

ディスプレイ
積算距離計(オドメータ)、区間距離計(トリップメータ)、燃料計の表示を行います。

初期表示
メインスイッチのキーを“ON”の位置にすると、すべての表示があらわれます。

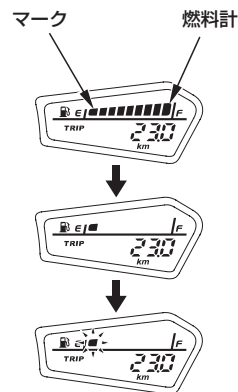
このとき表示されない部分がある場合は、お買い上げのHonda販売店で点検を受けてください。

表示の切換え
モードスイッチを押すごとに表示が下図のように変わります。

積算距離計（オドメータ）
走行した総距離をkmの単位で示します。

区間距離計（トリップメータ）
メータをリセット（“0”に戻す）した時点からの走行距離を示します。

区間距離計のリセット
“TRIP”の状態でモードスイッチを 2 秒以上押し続けます。

燃料計
燃料タンク内のガソリンの量を示します。ガソリンが減ってくるとFから順にマークが消灯していきます。

サイドスタンド状態では正確な表示はしません。ガソリンの量を確認するときは車体を垂直にして行ってください。

マークが 1 つになったときは早めにガソリンを補給してください。
このときの燃料残量 ： 約 1.5 ℓ

さらに燃料タンク内のガソリンの量が減ってくるとマークが点滅します。

表示灯

方向指示器表示灯

方向指示器スイッチを操作させると方向指示器ランプと同時に表示灯が点滅し、作動を表示します。

前照灯上向き表示灯(ハイビームパイロットランプ)

照射角が上向きのときに点灯します。

スタンバイ表示灯

エンジン停止中にスタンバイ表示灯が点滅している場合はアイドリングストップ・システムが作動していることを知らせます。(14ページ参照)

アイドリングストップ状態で着座していないときはスタンバイ表示灯は消灯し、約 3 分以上着座していないとアイドリングストップ・システムは解除され、ヘッドライトが消灯します。

警告灯

PGM-FI警告灯

メインスイッチが“ON”のときPGM-FIシステムに異常があると点灯します。
PGM-FI警告灯が点灯した場合は高速走行を避け、ただちにHonda販売店にご相談ください。

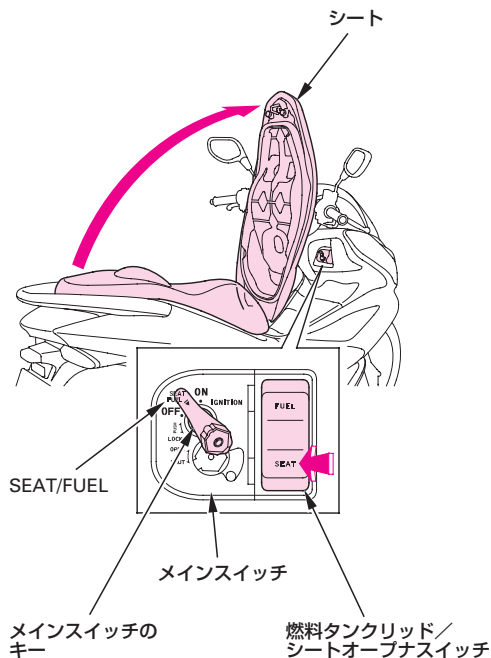
知　識
PGM-FI警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。

水温警告灯

メインスイッチが“ON”のとき、エンジン冷却水の温度が規定以上になると点灯します。
エンジン回転中に点灯した場合、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。
処置手順は、45ページ参照。

アドバイス
水温警告灯が点灯したまま、走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

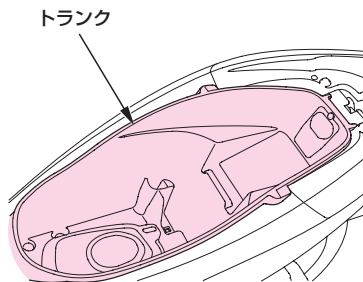
知　識
高温下での長時間にわたるアイドリングにより、警告灯が点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。

シート

開けかた

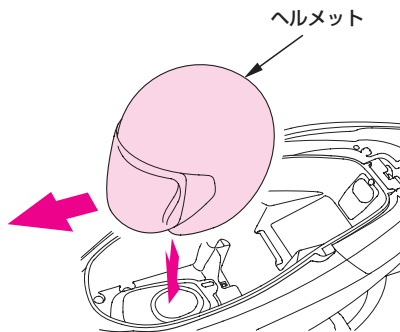
1 ハンドルを直進状態にします。
2 メインスイッチのキーをメインスイッチに差し込み、“SEAT/FUEL”の位置にします。
3 燃料タンクリッド／シートオープナスイッチの“SEAT”を押して、シートロックを解除し、シートを開けます。

閉じかた

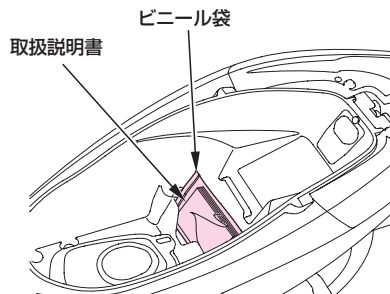
シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。シートをもち上げ、ロックがかかったかを確認します。
ロックをかけないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。

知　識
キーをトランク内に置き忘れた状態でシートを下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。

トランク

シートの下にトランクがあります。
トランクへの最大荷物重さ： 10.0 kg

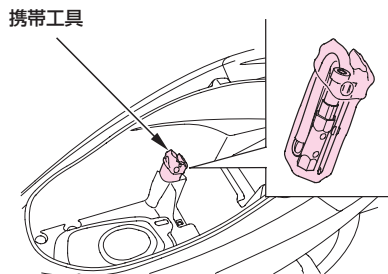
●シートは、シートロックを解除して開けます。
(23ページ参照)
●シートを閉めた後、完全にシートのロックがかかったかを確かめてください。
ロックをかけないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。
●トランク内に荷物等を入れ過ぎるとシートが押し上げられ、アイドリングストップ･システムが作動しない場合があります。このようなときは荷物等を取り出してください。

トランク内にヘルメットを収納する場合は、ヘルメットの前側をトランク前方に向けて収納してください。

知 識
●キーをトランク内に置き忘れた状態でシートを下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。
●トランク内はエンジンの熱で温度が高くなります。熱の影響を受け易い用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。
●貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
●洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。
●トランク内にはヘルメット種類や形状、大きさなどにより、一部収納できない場合があります。

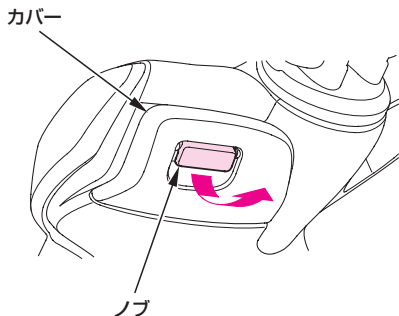
書類入れ

トランクの中に書類入れがあります。

取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、ここに格納してください。

知　識
洗車時、強く水をかけないでください。内部に水が入ることがあります。

携帯工具入れ

トランクの中に携帯工具入れがあります。

携帯工具は上図のように収納して、ここに格納してください。

グローブボックス

ハンドル左下にグローブボックスがあります。

グローブボックスの最大荷物重さ　：1.0 kg

開けかた

ノブを引き、グローブボックスカバーを開けます。

閉じかた

グローブボックスカバーを押し込みます。しっかり閉まっているか確認してください。

グローブボックスから荷物がはみださないようにしましょう。ハンドル操作などに支障をきたすことがあります。

知　識

- 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

慣らし運転について

適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。

この車は乗り始めてから500kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、28〜30ページの「始動手順」に従い行ってください。

- エンジンをかける前に、オイル、ガソリンなどの点検をしましたか。
  必ず点検を行ってください。（日常点検は、51ページ参照）
- エンジンをかけるときは、必ずメインスタンドを立ててください。
- この車には、サイドスタンドを出したままではエンジンがかからないイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。エンジンをかける前に、必ずサイドスタンドを格納してください。
  また、エンジンがかかっているときにサイドスタンドを使用すると、エンジンが止まります。サイドスタンドは、エンジンを止めてから使用してください。
- 急な飛び出しを防ぐために始動時は、必ず左ブレーキレバーを強く握った状態で行ってください。
- 左ブレーキレバーを強く握った状態でないとスタータモータは回転しません。

アドバイス

- スタータスイッチを押して 5 秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを“OFF”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
  これはバッテリ電圧を回復させるためです。
- 無用の空ぶかしや長時間の暖機運転はしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン等に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、最初にメインスイッチを“OFF”にしてください。再度、走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

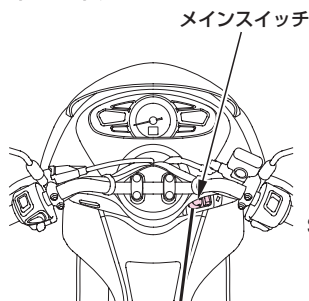
知　識

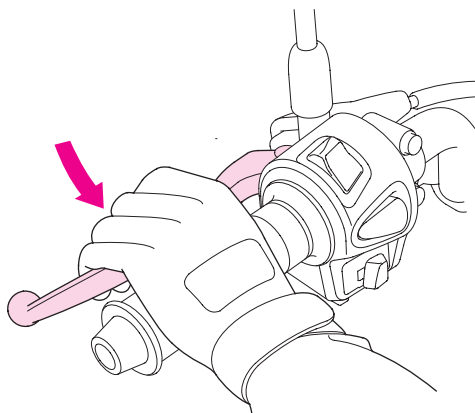
エンジンをかけるときには、スロットルを全開にしないでください。
スロットルを全開にしてエンジンを始動しようとすると、PGM-FIユニットが燃料の供給を停止します。

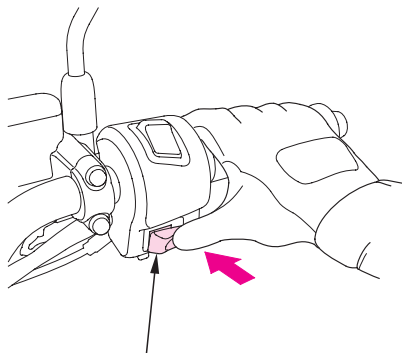
始動手順

この車にはオートチョークが装備されていますのでエンジンが冷えているとき、暖まっているときにかかわらず以下の始動手順に従ってください。

1. メインスイッチを“ON”にします。

メインスイッチ

アドバイス
エンジンを停止した状態でメインスイッチを“ON”にしたまま、長時間放置しないでください。
バッテリあがりの原因となります。

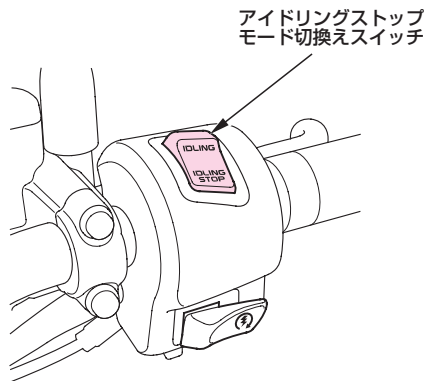
2. 左ブレーキレバーを強く握ります。

3.スロットルグリップを完全に閉じ、スタータスイッチを押します。

エンジンがかかったらすぐに、スタータスイッチから手をはなしてください。

アドバイス
エンジンが回転しているときスタータスイッチを押さないでください。エンジンに悪影響を与えます。

知 識
左ブレーキを強く握った状態でないとエンジンはかかりません。

●長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給してもエンジンがかかりにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータスイッチを普段より多目に使用してください。
バッテリあがりを防ぐため、スタータモータは連続して15秒以上回さないでください。
15秒以上回してもエンジンが始動しなかったときは、一度メインスイッチを"OFF"に戻して10秒以上待ってから再始動してください。

アイドリングストップ･システムを作動させるとき

アイドリングストップモード切換えスイッチを“IDLING STOP”にします。

アイドリングストップモード切換えスイッチ

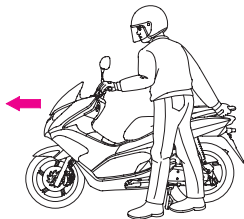
IDLING STOP	アイドリングストップ･システム作動
IDLING	アイドリングストップ･システム解除

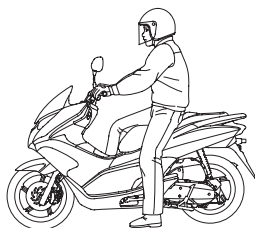
アイドリングストップ･システムの詳細は14 ページ参照

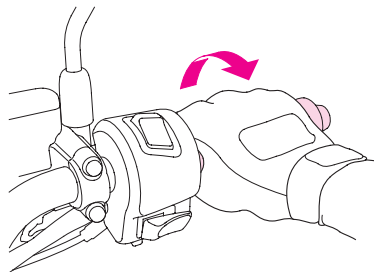
スタートするとき

スタート

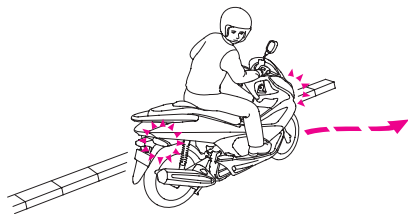
1．メインスタンドを外します。

●左ブレーキレバーを強く握ったまま、車を前に押してメインスタンドを外してください。
エンジンをかけてから走り出すまではエンジンの回転をむやみにあげないでください。
乗車する前に、サイドスタンド、メインスタンドは完全に納まっているか確認してください。

2．乗車します。

●車の左側から乗車し、シートにしっかりと腰をおろします。このとき足を地面につけて、倒れないようにしてください。
乗車してスタートするまでは左ブレーキレバーを強く握ったままにしておいてください。

3．左ブレーキレバーを放し、スロットルグリップをゆっくり回せば、車はゆっくりと走り出します。

●スロットルグリップをいきなり手前に回すと急加速して危険です。

正しい走りかた

発進

スタート前に方向指示器スイッチで合図を出し、後方の安全を確認してからスタートしましょう。

方向指示器スイッチ

メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。
解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

⇨ ……右に曲がるときに操作します。
⇦ ……左に曲がるときに操作します。

知 識
方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。

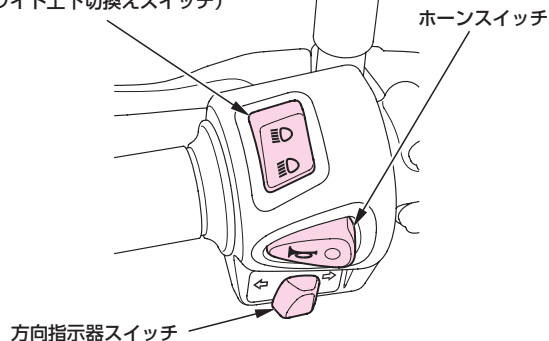
前照灯上下切換えスイッチ（ヘッドライト上下切換えスイッチ）

上向き
≣D…遠くを照らしたい場合に使用します。

下向き
≣D…対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適当なときは、下向きにしてください。

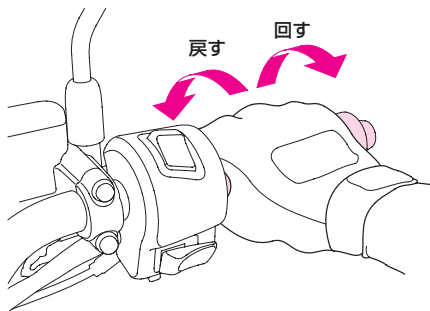
昼間は、下向き（ロービーム）に点灯しましょう。

ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

速度調整

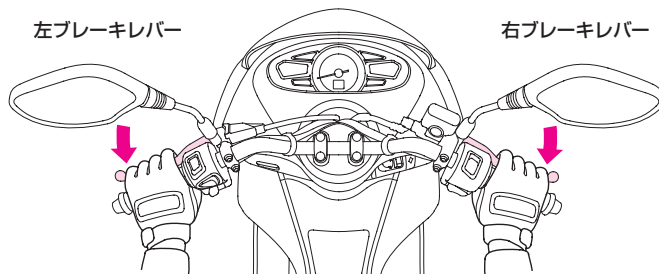
速度調整は、スロットルグリップで行います。

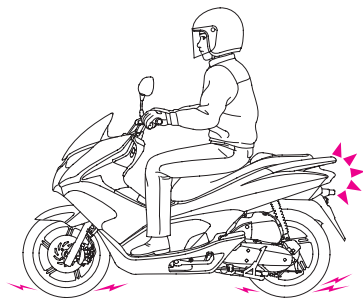
回す…速度が速くなる。
ゆっくり回しましょう。
登り坂ではスロットルグリップを徐々に回して力をつけましょう。

戻す…速度が遅くなる。
すばやく戻しましょう。

ブレーキのかけかた

ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。

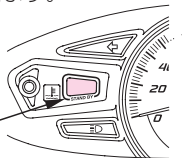
制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

●スロットルグリップを戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
●“はじめやんわり、あときつく”がブレーキの上手なかけかたです。

不必要な急ブレーキは避けましょう。
急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。

●雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。

雨の日は、とくに慎重に走りましょう。
●雨の日や路面がぬれているところでは、晴天時よりブレーキ停止距離が長くなります。速度を落として走り、早めにブレーキをかけるなど余裕をもって操作しましょう。
●下り坂では、スロットルグリップを戻して速度に応じてブレーキをかけながらゆっくり走りましょう。
●連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。
●水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
●雪道や凍った道はすべりやすいので十分に気をつけて、ゆっくり走りましょう。

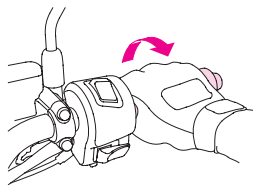
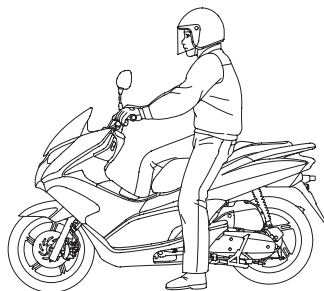
アイドリングストップモード切換えスイッチが“IDLING STOP”のとき

●車が完全に停車し、スロットルグリップを全部戻した状態にすると、数秒後にアイドリングストップします。
●このとき、スタンバイ表示灯が点滅して、アイドリングストップ状態であることを知らせます。

スタンバイ表示灯

●アイドリングストップしているときは、前照灯（ヘッドライト）が暗くなります。（消灯はしません）

アドバイス
アイドリングストップ状態で長時間停止しているとバッテリあがりの原因となります。

再スタートするとき

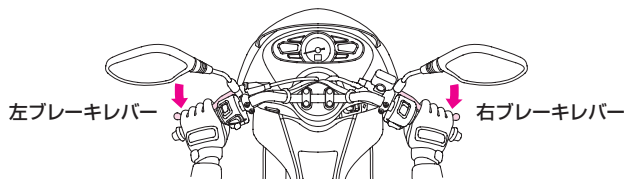
●スロットルを回すとエンジンが再始動します。

●着座していないとエンジンは再始動しません。
●エンジンが再始動すると前照灯（ヘッドライト）が明るくなります。
●エンジンが始動したことを確認してください。
●坂道等でのスタートは車が動きだす感触を確認してからブレーキレバーを放してください。

●アイドリングストップ状態でアイドリングストップモード切換えスイッチを“IDLING”にするとシステムが解除します。
●スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない場合はバッテリコード端子の緩み、バッテリあがりが考えられます。バッテリコード端子に緩みがないか点検してください。バッテリがあがっていたら充電または、交換をしてください。
（バッテリの取付け、取外しは68ページ参照）

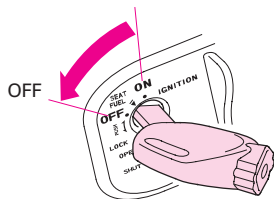
停車するとき

止まりかた

止まる地点が近づいたら

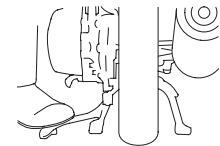
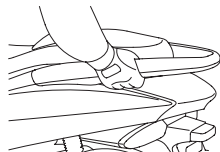
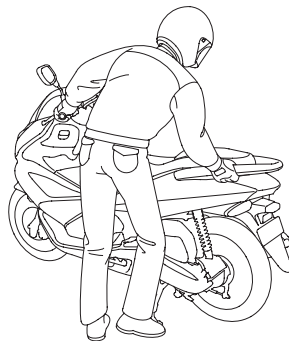
●早めに方向指示器スイッチで合図を出し、後方や側方の車に注意し、徐々に左に寄りましょう。

●スロットルグリップを戻して、早めに左･右のブレーキレバーを引きブレーキをかけましょう。
制動灯(ストップランプ)が点灯し、後車への合図になります。

完全に車が止まったら

方向指示器スイッチを戻し、メインスイッチのキーを“OFF”の位置にしてエンジンを止めます。
走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

メインスイッチのキーを“SEAT/FUEL”や“OFF”、“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。

左側におりて、平らな場所でスタンドを立てましょう。

●交通のじゃまにならない平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てましょう。不安定な場所では車が倒れることがあります。

●メインスタンドを使用する場合は、左手でハンドルをまっすぐにして、右手でグラブレールをしっかり持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立てましょう。

使用燃料

無鉛レギュラーガソリン

アドバイス

●必ず無鉛ガソリンを補給してください。
補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。

●高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。

●軽油や粗悪ガソリン(長期間保管したガソリン)などを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

⚠警告

ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、

●エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。

●燃料補給は、必ず屋外で行ってください。

●こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

身体に帯電した静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負う可能性があります。

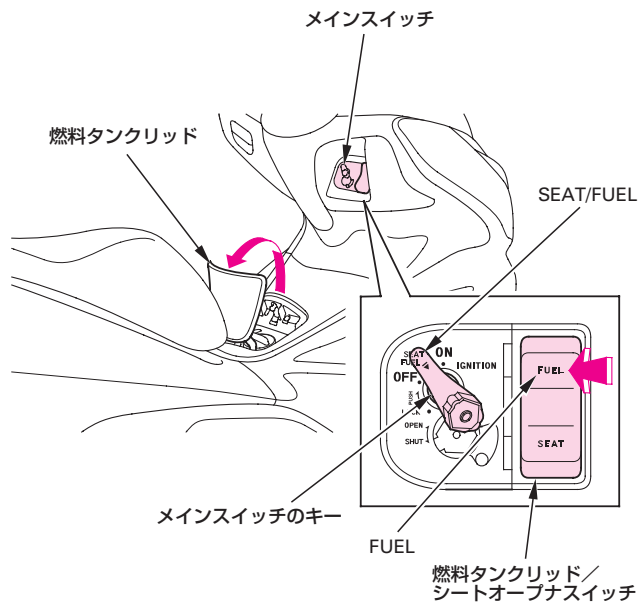
ガソリンを補給するときは、

●燃料タンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。

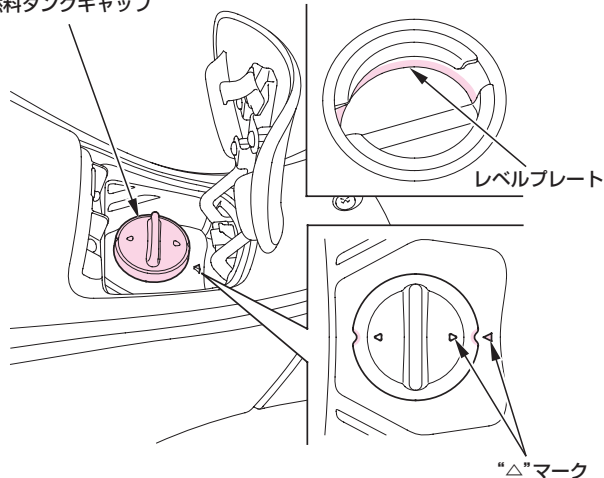
●給油作業は静電気を除去した人のみで行ってください。

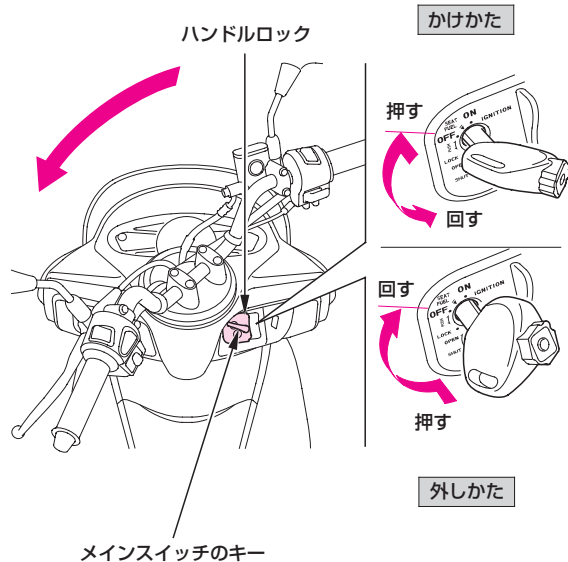
補給のしかた

1 メインスイッチのキーをメインスイッチに差し込み“SEAT/FUEL”の位置にします。

2 燃料タンクリッド／シートオープナスイッチの“FUEL”を押して、燃料タンクリッドを開け、燃料タンクキャップを左に回して開けます。

3 **ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。**

ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。

4 **燃料タンクキャップを右に回し、タンクキャップの"△"マークとキャップ下の"△"マークが合うところまで確実に回します。**
5 **燃料タンクリッドを閉じます。**

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチのキーを抜き、シャッターを閉めておきましょう。
チェーンロック等のご使用もおすすめします。

かけかた

1 **ハンドルを左または右にいっぱいにきります。**
2 **メインスイッチのキーをいっぱいまで押し込み、"OFF"から"LOCK"の位置まで回します。**

ロックがかかりにくい場合は、多少ハンドルを左右に動かしてください。

外しかた

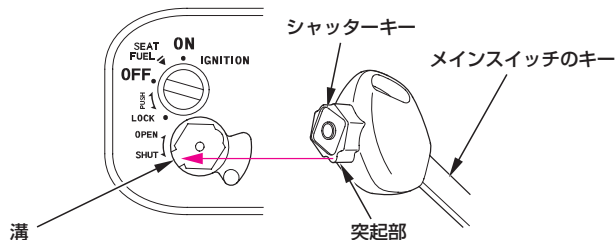
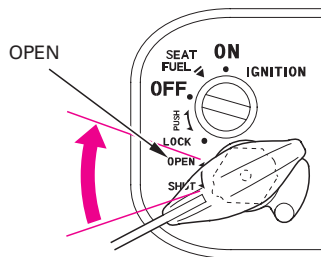
メインスイッチのキーをいっぱいまで押し込み、"LOCK"から"OFF"に回すとロックが解除されます。

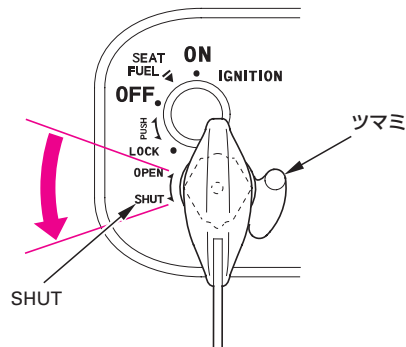
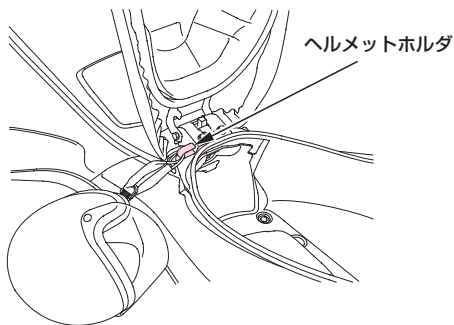
知　識

- "LOCK"の位置で、ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを左右に軽く動かして確認してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

ご使用の前に
装備の使いかた
乗ってみよう!
こんなときは…
メンテナンスについて
車両情報
さくいん

シャッター

盗難やいたずら防止のため、メインスイッチにシャッターを装備しています。車から離れるときは、シャッターを閉じましょう。

開けかた

メインスイッチのキーについているシャッターキーの突起部を溝にあわせて差し込み、“OPEN”の位置まで回します。

閉じかた

メインスイッチのキーを抜き、ツマミを上方に動かして閉じます。
また、メインスイッチのキーについているシャッターキーの突起部を溝にあわせ差し込み、“SHUT”の位置まで回すことで閉じることもできます。

ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。
走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

かけかた

1. シートを開けます。(23ページ参照)
2. ヘルメットホルダワイヤをヘルメットのあごひもの金具に通し、ヘルメットホルダにかけます。
   ヘルメットホルダワイヤは、携帯工具の中にあります。
3. シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。
   シートをもち上げ、ロックがかかったかを確認します。

外しかた

シートを開けて、ヘルメットを取外します。

知　識
キーをトランク内に置き忘れた状態でシートを下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。

車のお手入れ

お車を定期的に清掃することは、品質や性能を維持するために大切な作業です。
普段見逃しがちな異常の発見にもつながります。

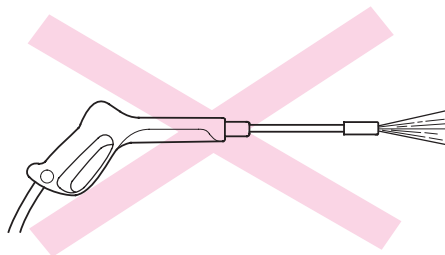
また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。
海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は必ず洗車してください。

洗車のしかた

1 水を流しながら柔らかい布やスポンジで汚れを落としてください。

汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流してください。

2 柔らかい布で拭きあげてください。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取付け部へ注油し、その後、車体の腐食を防ぐため、ワックスがけを行ってください。

●洗車は、エンジンが冷えているときに行ってください。
●高圧洗車機などのような車体に高い水圧がかかる洗車は避けてください。
特に可動部や電装部品等にかかると、作動不良や故障の原因となることがあります。

●洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
●洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
●ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディの目立たないところでくもりやキズ、色むら等が生じないか確認してからご使用ください。また、ワックス等で強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。
●洗車直後などにヘッドライト内部がくもることがあります。この場合、ヘッドライトを点灯することでくもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。
●ブレーキディスクやパッドにワックス、オイル等の油脂類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。

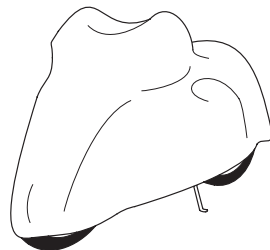
アルミ部品の取扱い

アルミ部品は、塩分などの汚れを嫌います。また、他の金属部品と異なり、傷がつきやすくなっています。取扱いについては必ず次のことをお守りください。

アルミホイール

●砂入り石鹸や硬いブラシは、傷をつけますので使用しないでください。
●縁石への乗り上げやすり当てはさけてください。

保　管

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください。

知　識
ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください。

長期間、ご使用にならない場合は次の項目をお守りください。
●大事なお車をサビから守るために、保管する前にワックスがけを行ってください。また、雨上がりには一度ボディカバーを外し、車体を乾燥させてください。
●バッテリは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は㊀側ターミナルを外してください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートの処置手順

1 メインスイッチでエンジンを止めます。

ラジエータカバーに異物等の付着がないか、確認します。異物等がある場合は取り除いてください。
メインスイッチが“OFF”の状態でエンジンが冷えるのを待ちます。

2 エンジンが冷えてから、リザーバタンクの冷却水量を確認します。**(64ページ参照)**

冷却水が不足していたら、リザーバタンクに補給してください。(65ページ参照)

3 ラジエータホースなどを点検し、水漏れがないか確認します。

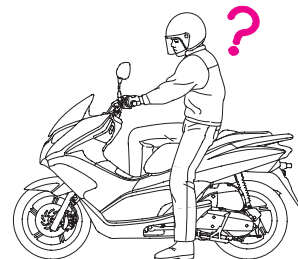
●**水漏れがある場合**
エンジンをかけず、Honda販売店にご相談ください。

●**水漏れがない場合**
走行可能です。ただし、異常が再発するときは、Honda販売店にご相談ください。

4 異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

エンジンが始動しないとき

ご使用中に万一故障した場合は、お買いあげ販売店もしくは最寄りのHonda販売店へお気軽にお申しつけください。

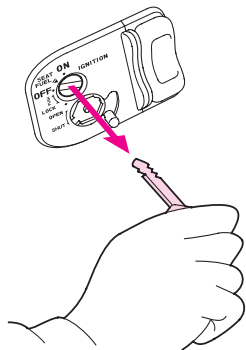
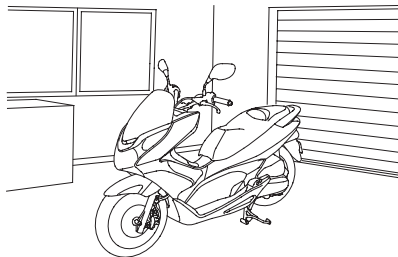
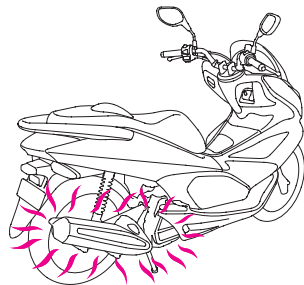
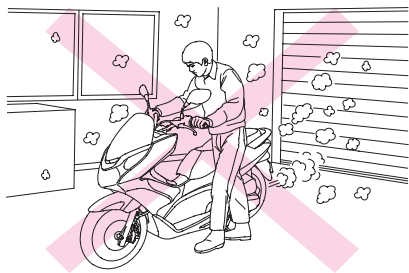
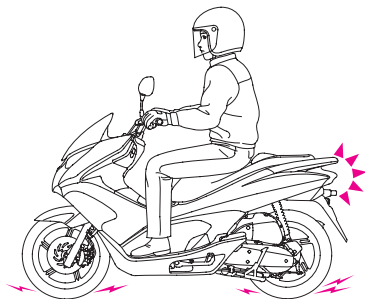
エンジンがかからない。
走行中に止まってしまう。

こんなときは、Honda販売店に持ち込む前に、次のことを調べてみましょう。

●**ガソリンは入っていますか。**
メインスイッチを“ON”にしたとき、燃料計のマークが残り１つになっていたらガソリンを補給してください。

●**エンジンのかけかたは正しいですか。**
(エンジンのかけかたは、28ページ参照)

●**PGM-FI警告表示は点灯していませんか。**
点灯している場合は、ただちにHonda販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。

場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、メインスタンドを立てて行ってください。

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。

走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。

日常点検・定期点検・簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年毎(12か月毎)、2年毎(24か月毎)の定期点検整備を設けてあります。
安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠ 警告

点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

●点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
●異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1か月目点検について

新車から1か月目(または、1,000km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。
お買いあげのHonda販売店で行ってください。
他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。
また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な"Honda純正部品"をご使用ください。
純正部品は、厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求めは、Honda販売店にご相談ください。
純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

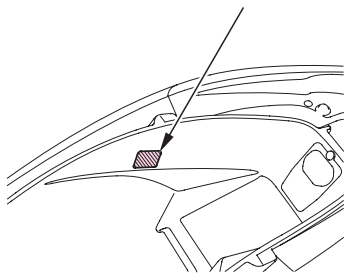
HONDA

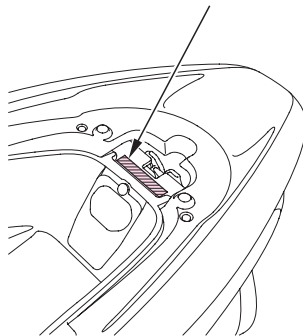
GENUINE PARTS

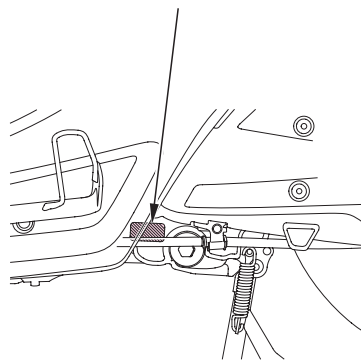
部品を注文するとき

色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

●カラーラベルは、トランク内に貼ってあります。

フレーム号機

フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。
また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバプレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置

エンジン号機打刻位置

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に準じ、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。
下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。53ページ以後を参照してください。
また、点検項目の部位を 2～4 ページの「ビジュアル目次」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

日常点検項目

●ブレーキ
- レバーの遊び
- レバーの遊び(油圧式)
- ブレーキの効き具合
- ブレーキ液の量

●タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷
- 異状な摩耗
- 溝の深さ

●エンジン
- 冷却水の量
- エンジンオイルの量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

●灯火装置及び方向指示器

●運行において異状が認められた箇所

定期点検

定期点検は、道路運送車両法に準じて設けられた１年毎(12か月毎)、2年毎(24か月毎)の点検と、使い始めてから１か月目(または、1,000km時)に行う点検があります。
また、これらの点検項目のほかにHondaが指定する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。
点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、74ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

バッテリの点検は６か月ごとにHonda販売店で行ってください。

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス(点検整備)について説明しています。

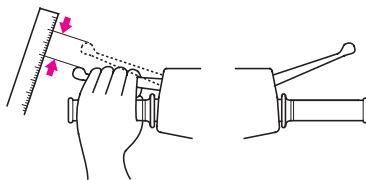
ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

ブレーキ

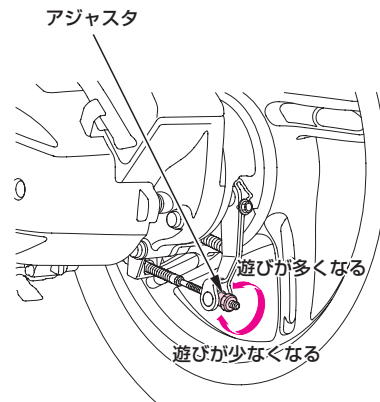
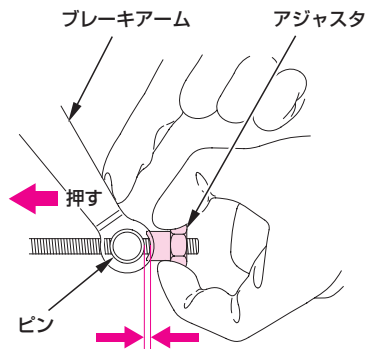
左ブレーキレバーの遊びの点検

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

左ブレーキレバーの遊び: 10－20 mm

規定の範囲を超えている場合は調整してください。

調整のしかた

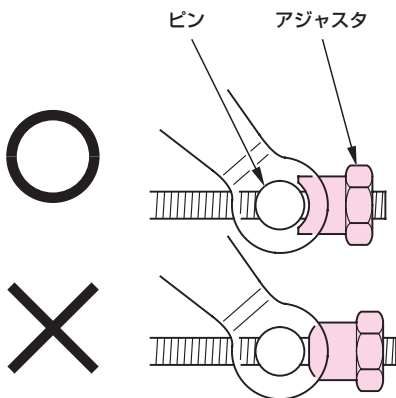
ブレーキレバーの遊びはハンドルを直進状態にして調整します。

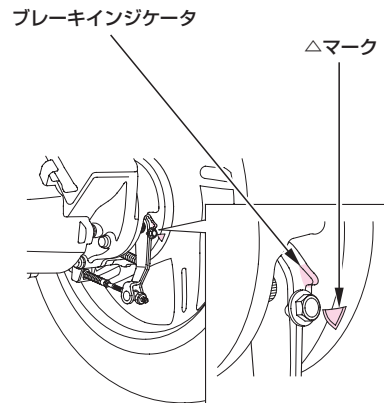
1 **アジャスタを半回転ずつ回し、遊びを調整します。**

2 調整後、ブレーキアームを押してアジャスタとピンの間に隙間があることを確認します。
またスタンドを立てて後輪を地面から浮かせ、ブレーキをかけない状態で後輪が軽く回ることを確認してください。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

ブレーキの遊びの調整について、詳しくはHonda販売店にご相談ください。

レバーの調整範囲を超えた場合は、Honda販売店にご相談ください。

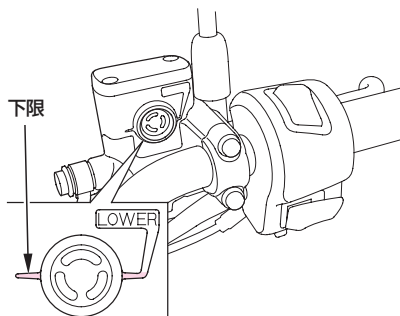
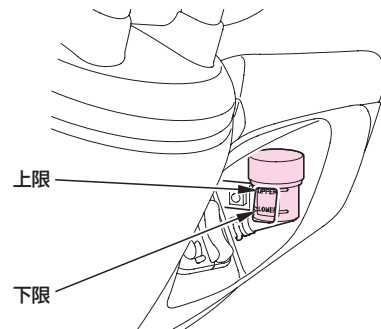
知 識

アジャスタの凹部は、半回転ごとにピンの凸部に一致します。遊びの調整後、これらが一致していることを確認してください。

ブレーキシューの摩耗の点検

ブレーキレバーをいっぱいに引いて、ブレーキインジケータの先端とブレーキパネルの△マークが一致しないことを確認します。
一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。
ブレーキシューの交換は、Honda販売店にご相談ください。

右ブレーキレバーの遊びの点検

ブレーキレバーの引き具合より、エアが混入していないかを確認します。
ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。Honda販売店にご相談ください。

ブレーキ液の量の点検

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、右ブレーキリザーバタンクキャップ上面を水平にします。
液面が下限（LOWER）以上にあることを確認してください。

連動ブレーキリザーバタンクの液面が上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合はブレーキパッドの摩耗が考えられます。パッドの摩耗の点検を行ってください。

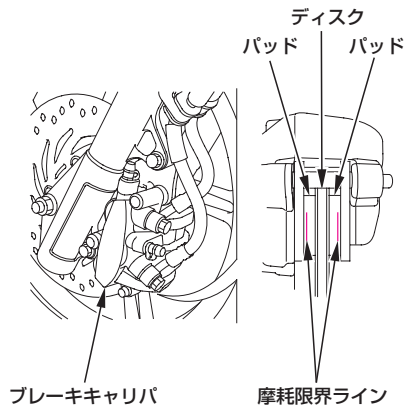
ブレーキパッドが摩耗していない場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。
異状箇所の修理やブレーキ液の補充はHonda販売店にご相談ください。

指定ブレーキ液

Honda純正ブレーキフルード
DOT3 または DOT4

アドバイス
銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
銘柄の異なるブレーキ液を使用すると、ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキキャリパの下側からのぞいて、パッドの摩耗限界ラインがブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。
摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。
ブレーキパッドの交換は、Honda販売店にご相談ください。

タイヤ

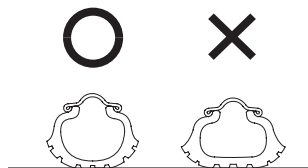
車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。
常に適正な空気圧を保ってください。
また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。

⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

空気圧の点検

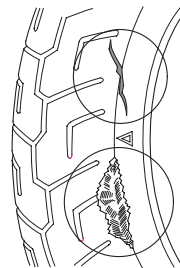
タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。
タイヤ接地部のたわみ状態が異状な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一カ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で調整してください。

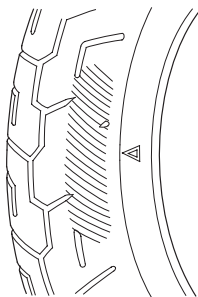
タイヤの空気圧

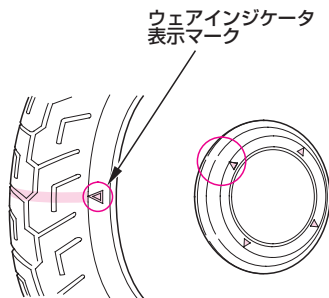
1人乗車時	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm²)
	後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm²)
2人乗車時	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm²)
	後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm²)

亀裂と損傷の点検

タイヤの全周に亀裂や損傷及び釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。
道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。

異状な摩耗の点検

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

タイヤの状態が異状な場合は、Honda販売店にご相談ください。

溝の深さの点検

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。
ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。

交換タイヤの選択について

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。
指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。
タイヤの交換は、Honda販売店にご相談ください。

指定タイヤ

前輪	サイズ	90/90－14M/C 46P
	タイプ	IRC SS－560F チューブレス
後輪	サイズ	100/90－14M/C 51P
	タイプ	IRC SS－560R チューブレス

⚠ 警告

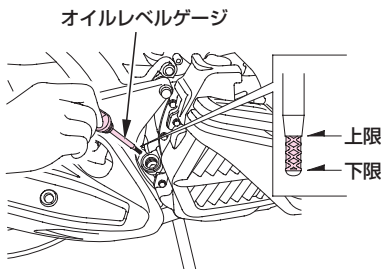
指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。
そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

エンジンオイル

エンジンオイルは走行距離や時間の経過とともに劣化したり減っていきます。
そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検･補給が必要です。
汚れたオイルや古くなったオイルは、エンジンに悪影響を与えますので、早めに交換してください。
エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。
エンジンオイルの点検はアイドリングストップモード切換えスイッチを"IDLING"にして行ってください。

オイル量の点検

1 平坦地でメインスタンドを立て、エンジンを３～５分間アイドリングさせます。
2 エンジン停止２～３分後にオイルレベルゲージを外します。
3 布等でオイルレベルゲージに付いたオイルを拭きます。
4 オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。
5 オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
オイル量が下限に近かったら、上限まで補給します。
6 エンジンオイルの補給は、61ページ参照。
オイルレベルゲージを確実に取付けます。

オイルの補給

推奨オイル
Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	ウルトラＥ１
JASO T 903規格	MB
SAE規格	10W-30
API分類	SL級

相当品をご使用の場合

オイル容器の表示を確認し、下記のすべての規格を満たしているオイルをお選びください。

- ●JASO T 903規格（二輪車用オイル規格）：MB
- ●SAE規格：外気温に応じ次ページの表から選択
- ●API分類：SG、SH、SJ、SL級相当

相当品がすべての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

アドバイス
銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルは使用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

アドバイス

API規格マークの入っている相当品を使用する場合、エナジーコンサービングを取得したオイルには摩擦係数の低いものがあり推奨しません。

推奨しません

推奨します

知　識

JASO T 903規格とは4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。

M081HMC087

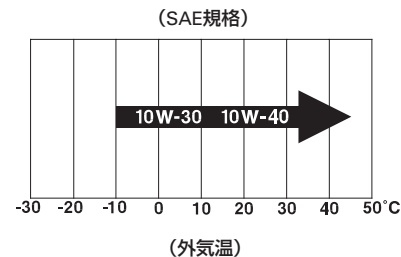
MB

上段：オイル販売会社の整理番号

下段：性能分類の表示MB性能であることを示しています。

JASO T 903 適合品
本MB性能の品質保証者
本田技研工業株式会社

外気温と粘度との関係

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

交換時期
初回：1,000 kmまたは1か月
以後：6,000 kmまたは1年ごと

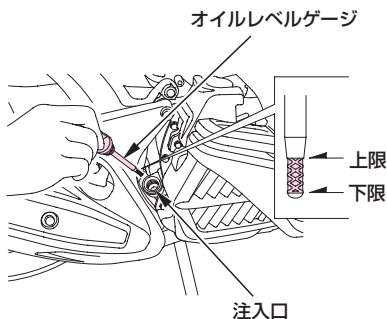
エンジンオイルの交換は、Honda販売店にご相談ください。

●次の使用条件下ではオイルの劣化が早まりますのでお早めに交換してください。
- 未舗装路での頻繁な走行
- 短距離走行の繰り返し
- アイドリング状態での頻繁な使用
- 寒冷地での使用

ご使用の前に
装備の使いかた
乗ってみよう！
こんなときは…
メンテナンスについて
車両情報
さくいん

補給のしかた

1 平坦地でメインスタンドを立て、エンジンを 3 ～ 5 分間アイドリングさせます。
2 エンジン停止 2 ～ 3 分後にオイルレベルゲージを外します。
3 布等でオイルレベルゲージに付いたオイルを拭きます。
4 オイルレベルゲージでオイル量を確認しながら、注入口よりオイルをオイルレベルゲージの上限まで補給します。

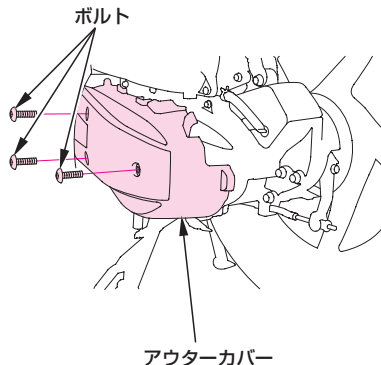
補給するときは、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。また、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

5 オイルレベルゲージを確実に取付けます。

 アドバイス
オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

ファイナルギヤオイル

オイル量の点検

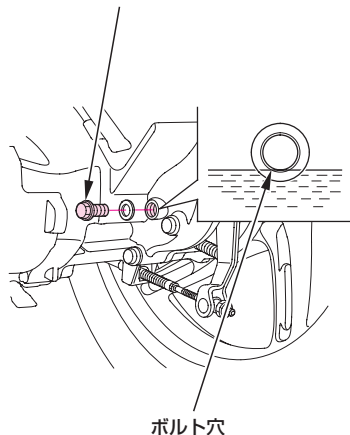
エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

1 平坦地でメインスタンドを立てます。
2 ボルトを取外し、アウターカバーをずらします。

3 エンジン停止2～3分後にオイルチェックボルトを外します。
4 オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認します。

油面が低い場合は、ボルト穴からオイルが出てくるまでオイルを補給してください。

補給するときは、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。また、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

5 オイルチェックボルトを確実に取付けます。
6 アウターカバーを取付けます。

アドバイス
オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

推奨オイル：
Honda純正オイル（４サイクル二輪車用）

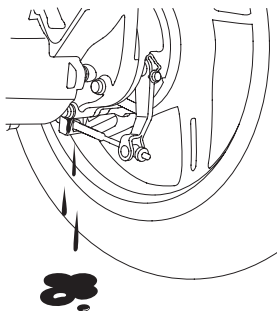
	ウルトラＥ１
JASO T 903規格	MB
SAE規格	10W-30
API分類	SL級

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、次の範囲内でお選びください。
- ●JASO T 903規格（二輪車用オイル規格）：MB
- ●SAE規格：10W－30
- ●API分類：SG, SH, SJ, SL級相当

アドバイス
銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルは使用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

交換時期
　初回５年目、以後４年ごと

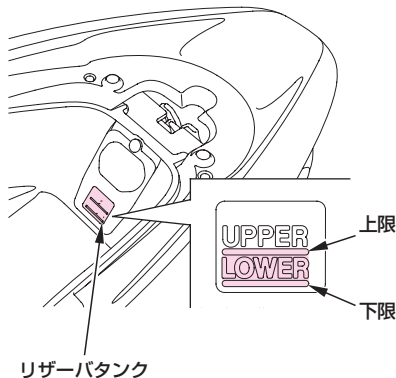
オイル漏れの点検

ファイナルギヤケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

冷却水

冷却水量の点検

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. シートを開けます。(23ページ参照)
3. 冷却水がリザーバタンクの上限と下限の間にあることを確認します。
   水量が下限に近かったら、上限まで補給します。

冷却水の補給は、次ページを参照してください。

冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、キャップ、ホースなどからの水漏れが考えられます。
また、リザーバタンクに冷却水がない場合も異常です。
Honda販売店にご相談ください。

冷却水の補給

補給はリザーバタンクのキャップから行い、通常はラジエータキャップを外さないでください。

⚠ 警告

エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

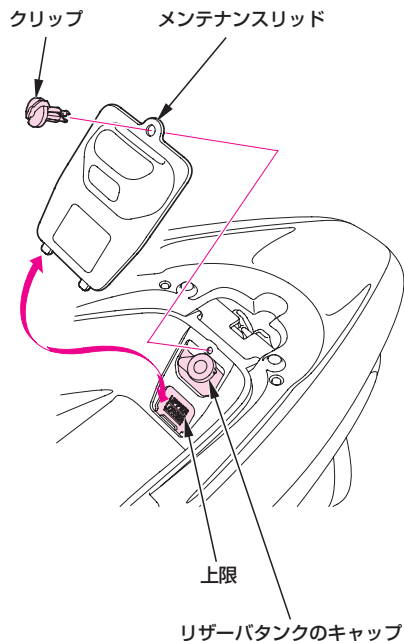
ラジエータキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエータが冷えていることを確認してください。

アドバイス
指定以外のラジエータ液や不適当な水を使うとさびなどの原因となります。

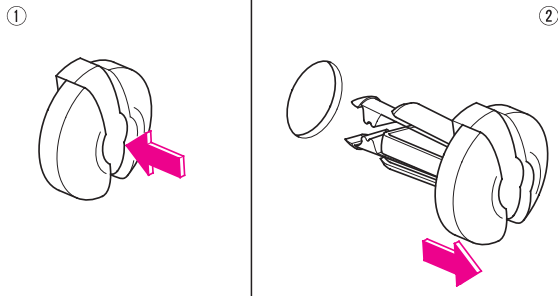
冷却水指定液
Honda純正ウルトララジエータ液

指定液の濃度を上水道(軟水)で下記濃度に薄めてお使いください。
指定濃度:30%(寒冷地は50%)
濃度による不凍温度は、
30%の場合−16℃まで
50%の場合−37℃まで

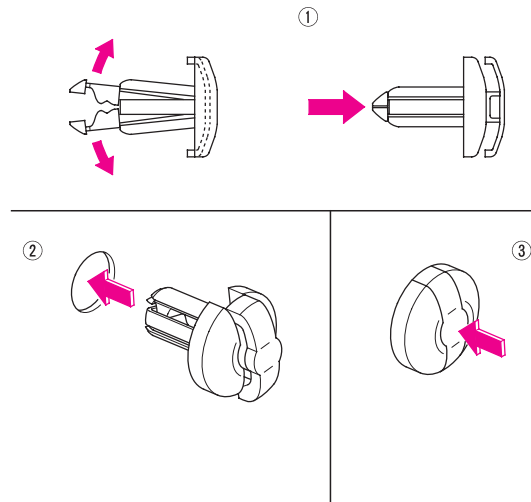
補給のしかた

1. シートを開けます。(23ページ参照)
2. クリップを外し、メンテナンスリッドを取外します。
(クリップの脱着は66ページ参照)
3. リザーバタンクのキャップを外します。
4. 平坦地で車体を垂直にし、リザーバタンクの上限まで冷却水を補給します。
5. キャップ、メンテナンスリッドを取付け、シートを閉じます。

クリップ

取外し

1 中央部のピンを押し込んでロックを解除します。
2 クリップを引き抜きます。

①
②
取付け

1 ピンの先端を軽く開きながら、ピンを押し戻して取付け状態にします。
2 クリップを穴に差し込みます。
3 ピンを軽く押してロックします。

①
②
③

バッテリ

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
バッテリのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリの取扱い

●バッテリ取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
●バッテリ液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス
密閉式バッテリですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
バッテリの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

⚠警告

バッテリには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

●バッテリの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
●バッテリを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

●電解液が目に付着したとき
コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
●電解液が皮膚に付着したとき
電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
●電解液を飲み込んだとき
水、または牛乳を飲んでください。

応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

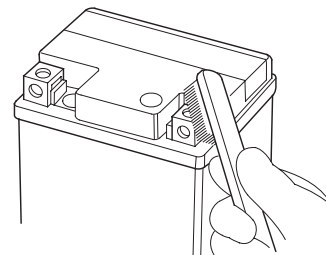
バッテリターミナル部の清掃

清掃のしかた

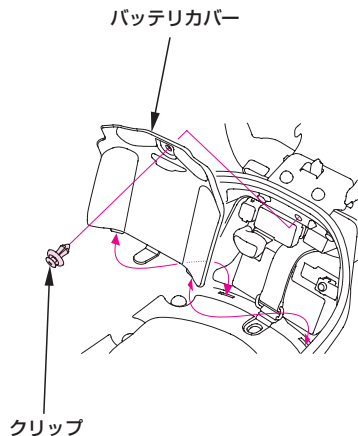
1 バッテリを取外します。(次ページ参照)

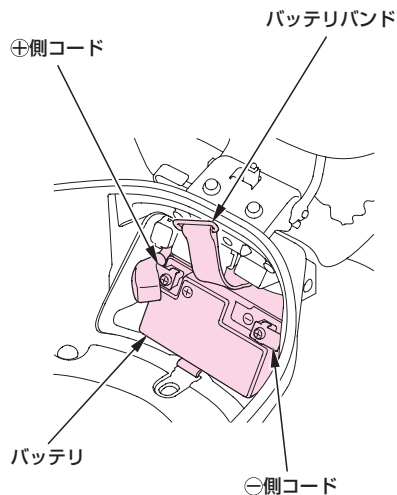
●ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
●ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパで磨きます。

2 清掃後、バッテリを取付けます。

バッテリを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリをご使用ください。

バッテリの取付け、取外し

取外し

1. メインスイッチを“OFF”にします。
2. シートを開けます。(23ページ参照)
3. クリップ中央をドライバーで左へ回し、中央が飛び出た状態でクリップを引き抜き、バッテリカバーを取外します。

4. バッテリバンドを取外します。
5. ⊖側コードの端子を外し、⊖側コードを取外します。
6. ⊕側コードの端子を外し、⊕側コードを取外します。
7. バッテリを取出します。

取付け

取付けは、取外しの逆手順で行います。

クリップの取付けは、クリップを穴に差し込み、飛び出ている中央を平らになるまで押し込みます。

バッテリコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。
また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。

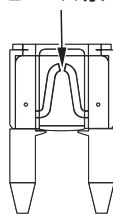
ヒューズ

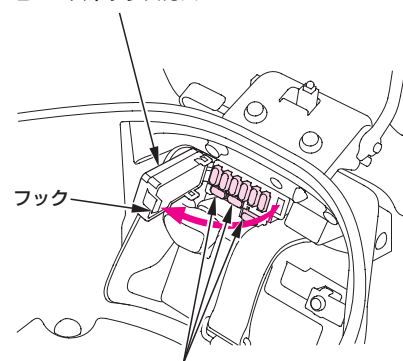
ヒューズの点検、交換

メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。
ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。
指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

アドバイス
電装品類（ライト、計器など）を取付けるときは車種毎に決められている「Hondaアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりをおこすことがあります。

取外し

1. メインスイッチを“OFF”にします。
2. バッテリカバーを取外します。（68ページ参照）
3. フックを外し、ヒューズボックスカバーを開けます。
4. ヒューズを指でつまみ、引き抜きます。

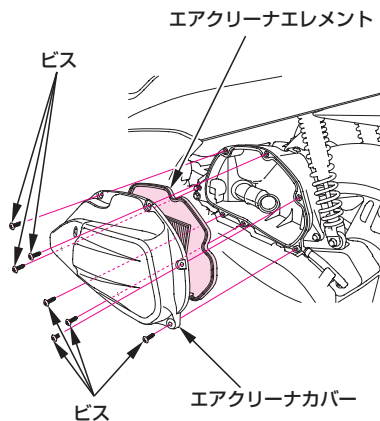
取付け

取付けは、取外しの逆手順で行います。

エアクリーナ

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナエレメントが装備されており、点検·清掃は不要です。
20,000kmごとに交換してください。

エアクリーナエレメントの交換

1 ビスを外し、エアクリーナカバーを取外します。

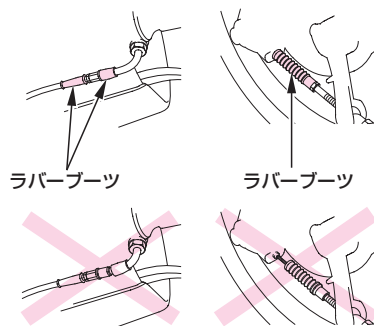
取外し後ケース内にゴミやほこり等がないことを確認し、ある場合は取除きます。

2 取外しの逆手順で、新品のエアクリーナエレメントを取付けます。

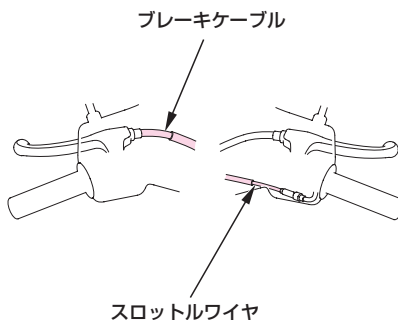
アドバイス

- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

ケーブル・ワイヤ類

ラバーブーツの点検

ケーブル類にはインナーケーブル保護のため、ラバーブーツが取付けられています。常に正しく取付けられているか点検してください。
洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭き取るようにしてください。

ケーブル・ワイヤ類の点検

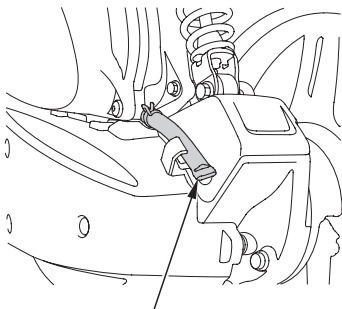
ブレーキレバー、スロットルグリップを作動させ、スムーズに動くか、作動が異状に重くないか、ブレーキレバー、スロットルグリップから手を放したときにレバーやグリップがスムーズに戻るかを点検してください。
また、ケーブル・ワイヤの外表部に損傷がないかを点検してください。異状を感じた場合はHonda販売店にご相談ください。

ブリーザドレン

ブリーザドレンの清掃

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザドレンの清掃が必要です。

清掃のしかた

（Honda指定１年点検整備項目）

1. ブリーザドレンの下に受け皿等を置きます。
2. ブリーザドレンを外し、ブリーザドレン内の堆積物を取除きます。
3. ブリーザドレンを確実に取付けます。

主要諸元

項目		諸元
型式		EBJ－JF28
長さ		1,915 mm
幅		740 mm
高さ		1,090 mm
軸距		1,305 mm
原動機種類／総排気量		ガソリン･4サイクル　／　0.124 ℓ
車両重量		126 kg
乗車定員		2人
タイヤサイズ	前輪	90/90－14M/C 46P
	後輪	100/90－14M/C 51P
最低地上高		130 mm
燃料消費率※		53.0 km/ℓ (車速 60 km/h 定地走行テスト値)
最小回転半径		2.0 m
圧縮比		11.0
最高出力		8.5 kW(11.5 PS) / 8,500 rpm
燃料タンク容量		6.1 ℓ
点火形式		フル･トランジスタ式 バッテリ点火
点火時期		BTDC15° / 1,700rpm
アイドリング回転数		1,700 rpm
点火プラグ	NGK	CPR7EA－9
バッテリ		12V－6Ah
クラッチ		乾式多板シュー式

※　燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。

サービスデータ

項目			値
左ブレーキレバーの遊び			10－20 mm
タイヤ空気圧	1人乗車時	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm²)
		後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm²)
	2人乗車時	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm²)
		後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm²)
エンジンオイルの量	全容量		0.9 ℓ
	オイル交換時		0.8 ℓ
ファイナルギヤオイルの量	全容量		0.18 ℓ
	オイル交換時		0.16 ℓ
ヒューズ	メインヒューズ1，2		10A, 30A
	ヒューズ		10A, 15A
点火プラグの点火すきま			0.8－0.9 mm
エアクリーナエレメントの形式			ろ紙式(ビスカスタイプ)
電球(バルブ)	ヘッドライト		12V－35/30W
	ポジションライト		12V－5W
	ストップ・テールランプ		12V－21/5W
	方向指示器(ウインカ)ランプ	前	12V－21W
		後	12V－21W
	ライセンスランプ		12V－5W

さくいん